

# 自由南アフリカの声

*Voice of Free South Africa*

2002年11月

No.30

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

## 2002年11月の報告と予定

- 6月、7月 KZN(クワズールナタール)州へ車2台を送付
- 7月TAAA南ア連絡員帰国報告会
- 8月河合塾より本をBLLへ送付
- 9月ELETへ、10月MEIへ本送付
- 10月TAAA10周年記念パーティー開催
- 11月南ア連絡員がELETとKZN教育省を訪問
- 12月南ア連絡員一時帰国予定

## 目次

10周年記念パーティーに参加して.....	2
私の夢 .....	4
南アフリカ移動図書館活動の現状.....	5
活動報告.....	7
寄付をくださった方々.....	8



ミーティングと梱包作業に南アの留学生も参加 2002. 10

## 10周年記念パーティーに参加して

村泉 巨竹

2002年10月6日(日)午後3時より、北浦和にある埼玉県労働会館にて、TAAAの10周年記念パーティーが和やかに行なわれました。当日はクリシュ・マカドゥジ南アフリカ共和国大使とレベッカ・マンパー二参事官も駆けつけてくださり、改めて南アとTAAAの結びつきの深さを感じました。

野田代表の挨拶に続いて、大使からのお言葉をいただき、乾杯。しばらく談笑の後、出席していただいた皆さんにも、それぞれ自己紹介をしていただきました。そして最後は、北爪健一さんの一本締めでパーティーはお開きとなりました。日本語の上手なアメリカ人のラング・クレイヒルさんも参加し、大使とレベッカさんのお話の時には通訳を務めてくださいました。

また当日配られた10周年記念誌は素晴らしい出来で、編集した3氏に感謝しています。

最後に私ごととして、今回このパーティーで非常に心をうたれたことがあります。それは、TAAA、そして南アの人たちに対する思いの強さを、出席されたある2人の方から感じたことです。今はどうしようもない都合でTAAAに時間を割くことはできないが、必ず帰ってくる。(少し大袈裟かもしれませんが)2人のお話からこんな感じを受けました。こんな情熱が、TAAAが長く続いていくことができた、ひとつの大きな要因だと思いました。

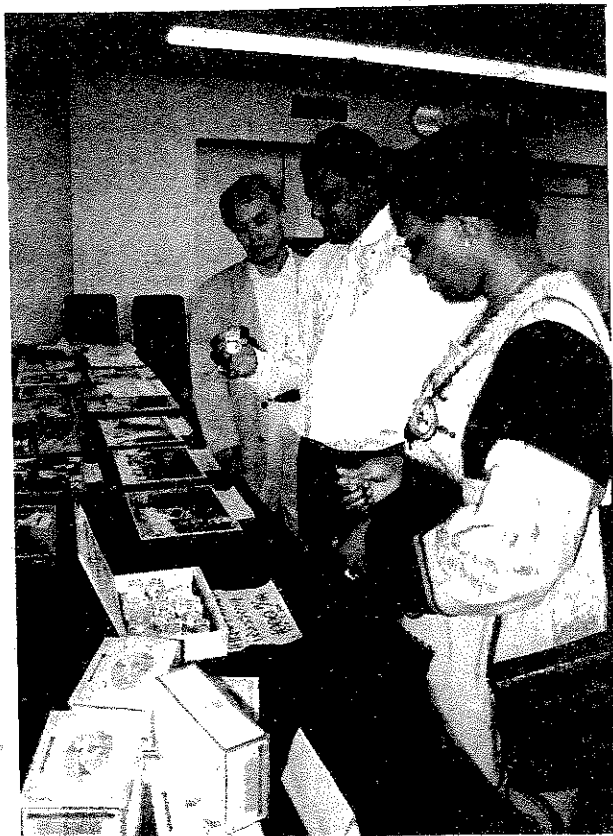
## マカドゥジ南ア大使のお話から

山田 玲子

大使は、TAAAが南アを訪問した際の写真と、今回寄せられた「私の夢」というタイトルの南アの子どもたちの作文を、非常に熱心に時間をかけて見ていらっしゃいました。そして、挨拶の中で「TAAAがこの10年間に22万冊の本と13台の移動図書館車を送ったことが、南アの発展にどれほど貢献したか。これからもどうか継続して欲しい」ということを、力を込めて語られました。この言葉は、TAAAの10年間の活動に対する最高の賛辞として、深く胸に刻まれました。

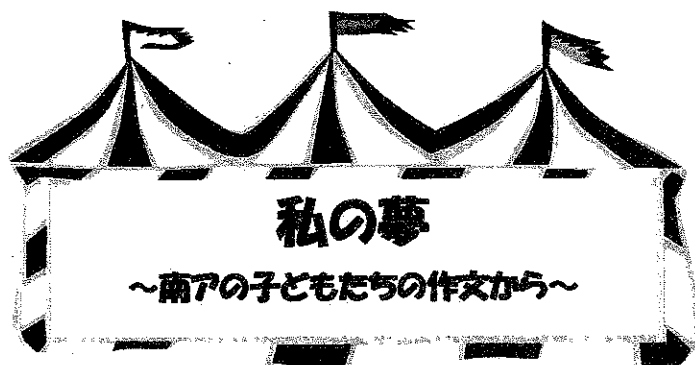
また、TAAAの活動の発端となった10年前のANC東京事務所の代表(現ベルギー及びEU全権大使)のジェリー・マツィーラ氏とは古くからの知己であり、今回この場にはいない彼の代わりに、お祝いとお礼の言葉を言いたい、とも話していました。

大使は作文を見て、「自分も子どもの頃は、あんなふうに考えたことがあった」と、自らの子ども時代を振り返られました。子ども達の作文には、大きな家が欲しいとか、おいしい食べ物が欲しいとか、結婚して家族が欲しいとか、いい職業につきたいとか、物質的なものを求める内容が多いのですが、これもそうしたものに恵まれていない現状を現しているのでしょう。



会場を訪れたマカドゥジ大使(中央)とマンパー二参事官(右)

★この作文は、TAAAから送った本を配布している、ダーバン近郊の学校の子どもたちが書いたものです。



## 私の夢

~南アの子どもたちの作文から~

私の夢は看護婦になって、子どもや大人を助けること。そう決めています。

看護婦は看病をします。患者が死んでしまうと、泣く看護婦もいます。具合が悪いのに病院に来ない人を叱りつけることもあります。これは当たり前です。病気なら病院で薬をもらわなくてはなりませんから。

私は、看護婦の制服が真っ白で好きです。小学校を卒業したら、絶対看護婦になりたい。看護婦になれたら言うことなしです。

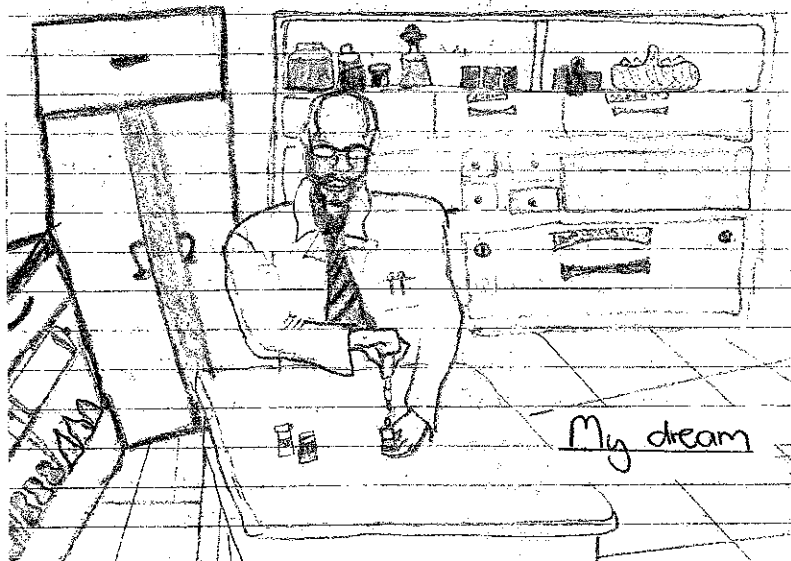
(Nokubonga Bisane 6年生)

私は、南アフリカ人らしくなります。  
私は、いろいろなことができるようになります。  
私は、有名になります。  
私は、強くなります。  
私は、利口になります。  
私は、美しい妻をもらいます。  
僕、ハンサムなもの。  
私は、家族を持ちます。  
娘がひとり、息子がひとり。  
私は、果物を食べます。野菜を食べます。  
肉を食べます。  
私は、ケープタウンに旅行に行きます。  
(Siphiwe Ndlove 3年生)

僕は13歳です。Umphumuloに家族3人で住んでいます。僕には母さんしかいません。

僕の夢。もし神様が許してくださるなら、もし学校の勉強を支援してくれる人がいるなら、僕は薬剤師になりたいです。社会の決まりに従い、母さんや先生の言いつけも守って、僕は薬剤師になりたいと思います。なぜ薬剤師になりたいかと言うと、液体や固体を混ぜ合わせる実験をしたり、錠剤を作ったりしたいからです。それに、薬剤師になって立派な家に住みたいし、教養のある素敵な女性と結婚もしたいし、上等な車も欲しいからです。車は、僕用と妻用と1台ずつ欲しいです。結婚したら、子どもは2人だけ欲しいです。子どもには健全な食事をとって欲しいです。

(Nkosikhona Gasa 7年生)



(訳/安部弥生)



## 南アフリカ移動図書館活動の現状

平林 薫 (TAAA 南ア在住連絡員)

さる7月13日の報告会で、南アでTAAAの連絡員をしている平林薫さんが一時帰国し、TAAAが支援する移動図書館が巡回するヨハネスブルグ、西ケープ州の学校や、ストリート・チルドレンの施設の現状などを報告してくれました。

南アフリカの2大州、移動図書館車が活躍しているハウテン州と西ケープ州についてお話させていただきます。ハウテン州は商業都市ジョハネスバーグと、国の首都であり、行政府のおかれているプレトリアのある州で、ハウテンとはストゥ後で金を意味します。国の中心地であり、金などの鉱物資源もあり、9つの州の中ではあらゆる点で恵まれているといえます。しかしだからこそ、地方の州からのみならず、近隣諸国、またアフリカ大陸全土から奮とチャンス求めて人々が集まってきます。現在ジョハネスバーグの中心地はまるでアフリカ大陸の縮図かのようにあらゆる国からの移民であられ返っています。そのような人々が

INFORMAL SETTLEMENT (不法居住地) をどんどん拡大させ、政府もそれに対応していかなければなりません。ハウテン州で最初にTAAAが支援を始めたNGOのMEI (METHODIST EDUCATION INITIATIVE)は、ジョハネスバーグの中心地から東へ25キロほどのペノニという町のメソジスト教会を拠点に、その東10キロほどの黒人居住区デベトンを中心に活動を行っています。移動図書館車は現在、タウンシップ内の小学校、周辺のINFORMAL SETTLEMENTの学校およびファームスクールの計28校を回っています。中心スタッフは白人女性のアリソン、タウンシップの学校で教師をしていたジョージ、ドライバーでアリソンの片腕であるアブソレムの3名です。3週間かけて各学校を回り、貸し出しをして、4週目から順次返却に回ります。先生一人につき最大20冊まで貸し出しています。現在のところ生徒に直接貸し出すことはしていません。今年から本の背にはレベルごとに色分けされたシールが貼られ、先生方が短時間で選びやすいように工夫されています。現在移動図書館車のデポがある、DAVEYTON INTERMEDIATE SCHOOLは、本来プロジェクトの中心になるべき学校なのに、校長先生始め先生方が積極的でなく、現在は本の貸し出しすら行われていないのは大変残念です。

タウンシップ内の学校は、もちろん元白人地域の立派な学校とは比べ物になりませんが、それでもINFORMAL SETTLEMENTの学校やファームスクールに比べると設備はまだましです。建物等の基礎ができているので、それを改築したり広げたりして、少しずつですが改善されつつあります。

KATLEGO INTERMEDIATEで撮った子供たちの写真が、全国版のサンデータイムスのフォトコンテストに入りましたが、残念ながら優勝はできませんでした。南アフリカの子供たち、特に黒人居住区の子供たちは皆素直で明るくて、支援のためにタウンシップを訪問するのにいつも逆に元気をもらって帰ってきます。



MEIのスタッフの子どもたちと

## ■西ケープ州

次にケープタウンのある西ケープ州についてお話させていただきます。西ケープ州はアパルトヘイト政権政党であった国民党と、主にイギリス系の支持者の多い民主党が協力体制を組んで、新政権発足後も、いわゆる白人政権主導の州でした。9つの州の中で、現政権政党ANC主導でない州は、この西ケープ州とズールー人主体のインカタ自由党率いるクワズールーナタール州の2州です。しかしつい最近国民党と民主党が分裂し、何と新国民党はANCと手を組むことになりました。ここに至るまでに州知事やケープタウン市長の失態、失脚劇があり、現在西ケープ州は政治的に大変不安定な状態にあります。しかし、この国民党とANCの連合にはがんばってもらいたいと期待しています。これまでこの州は、底辺で生活をしている人々のことをあまりにもなおざりにしてきました。他のどの州より美しい景観を持ち、環境保護や観光の促進などはせっせとしていながら、国内最大の INFORMAL SETTLEMENT の状況は見るに耐えないものがありました。私自身、仕事柄ケープタウンを訪問することが多いのですが、あの町はいまだにアパルトヘイトを引きずっているようで、どうも好きになれません。

西ケープ州の移動図書館車プロジェクトは、州教育省の図書館担当のJUNEを責任者として、現在エルギン、ソアールと2箇所で行われています。ケープタウン周辺のタウンシップの学校ももちろん支援を必要としてはいますが、州内はファームスクールが多く、そういった地方の子供たちはあらゆるメディアから隔絶されてしまっている状態で、まずは彼らの支援からということで活動が行われています。また、現在ウエストコーストの広い地域をカバーするプロジェクトの調査、計画段階に入っており、近い将来この地域にも図書館車の寄付をいただければという要請がありました。

まず、新しく6月より正式に始まったソアールのプロジェクトからお話します。ソアールはケープタウンより東へ385 km、オーストリッチ農場で有名な町オーツホーンの手前にある小さな村です。カール半砂漠地帯にあり、夏は異常に暑く、冬の寒さは大変厳しく、今は夜には氷点下になります。私が訪問した2月中旬はととても暑くて、連日



平林さんを歓迎して踊る

35、6度でした。ただ、湿度がないので木陰や建物の中に入ると涼しく、快適です。周辺はこれといった産業はなく、果物栽培と牧畜くらいで、フレッシュフルーツとドライフルーツ、乳製品などを細々と出荷しています。そのため若者はどんどんケープタウンに出てしまい、過疎化が進んでいます。大変貧しい村ですが、人々は暖かく、一生懸命訪問者をもてなしてくれました。先生方は大変熱心で、移動図書館車プロジェクトが地域に与える影響力の大きさを熱弁してくれました。

村には3つの小学校と2つの幼稚園があり、移動図書館車のサービスが行われています。車は現在、RP小学校校長、ヨハン氏の家の近くに保管されています。プロジェクトチームが結成されており、特にRP小学校のジャネット先生が大変積極的に動いてくれています。車を保管するデポとリソースセンターはRP小学校の敷地内に建設したい意向で、建設資金についてはプレトリアにある日本大使館の草の根ファンドに応募したところです。現在まだ本の数が足りないので、あらゆる国内外の基金に本の購入費の支援要請も始めており、TAAAからの絵本、ストーリーブック、参考書は大変助かっているとのこと。ただ、残念ながらテキストブックはカリキュラムの違いなどのため使えないことが多いことと、この地域は完全にアフリカーンス語中心なのですが、中古の本はあまりないため、どうしても新たに本を購入しなければならないのがかな

り負担になっているようです。ディーゼルの給油と車の修理などは、オーツホーンにあるENGENガソリンスタンドが支援してくれています。車には大きなENGENのマークがつけられており、スタンドの宣伝にも一役買っています。図書館車名は”いすみ一号”のまま、皆何て書いてあるのが興味津々だったようで、読んであげたら大うけでした。本が十分に揃い、プロジェクトが軌道に乗ったら、手前の町レイディスミスからオーツホーンまでの広い範囲のファームスクールを回りたいと考えています。現在は先生たちが順番にバスを運転していますが、将来的には専従のドライバー兼リソースセンタースタッフを雇いたい意向です。

#### ●小学校と幼稚園

RP PRIMARY 生徒数285人

EK PRIMARY 生徒数306人

AMALIENSTEIN PRIMARY 生徒数254人

BESIGE BYTJIES PLAY GROUP

ALABAMA PLAY GROUP

#### ■エルギン・コミュニティ・カレッジ

次に、エルギン・コミュニティ・カレッジを拠点にした移動図書館車プロジェクトについてお話しします。最近就任した校長のマーク・ウォーカー氏は牧師で、白人ですがANC支持者で、アパルトヘイト当時は解放闘争に加わっていました。常に弱き、貧しき人々のために働いてきた人物なので、このカレッジをコミュニティのために役立たいという熱意が強く伝わってきます。現在、移動図書館車プロジェクトの担当は白人女性のペロニカで、彼女も大変熱心に活動しており、ジューンも“彼女がいてくれるのでエルギンは大丈夫”とっていました。本のコンピューター管理については、コンピューター担当のナイーム氏が協力してくれています。エルギンの産業は果物だけといっていいくらいで、季節労働者が圧倒的に多いため、果物の収穫時期以外は失業率が70%にも達してしまいます。そのため、カレッジでは少しでも現金収入になるよう、裁縫や木細工の技術を教え、少しずつだが注文をとるまでになっています。また、先生や子供たちにコンピューターを知ってもらうよう教室も開いています。ただ、カレッジに來

るための輸送手段がいつも問題のようで、訪問時には、プールのクラスを受けるために子供たちが果物を輸送する大型トラックの荷台に乗って来ていました。カレッジには実験室もあり、TAAAから寄付をいただいた顕微鏡はそこで使わせてもらう予定だが、現状では、実験室を使いこなせる先生が少ないため、まず先生の教育をしなければならないのだそうです。カレッジはもちろん成人の識字教育も行われており、リサーチルームは学習者が自由に使えるようになっています。また、農場労働者や学校を中退してしまった青年たちに、農業についての一般教育や体験学習も行われ、周辺の大農場主たちの協力も得ながら、将来的に小さくても自分の土地をもって経営できるような人材を作ることを目標としています。そして、HIV/AIDSなどのヘルスケアプログラムも各学校と協力しながら行われている。

現在移動図書館車は10校のファームスクールをまわっています。ただ車自体が州教育省の所有のため、保険などの関係から、州の職員でないペロニカが運転することにクレームがつけられてしまい、しばらくもめていたが、なんとか許可があり、問題は解決したようです。日本大使館の草の根ファンドで建てられたデポとTAAAからの図書館車、地元企業やTAAAからの寄付の本がきちんとまとめられているリソースセンターは、カレッジの活動の中心といってもいいくらい充実してきています。プロジェクトを動かすのは何と言っても熱意を持った“人々”です。そういう人々がいるエルギン・コミュニティ・カレッジは、移動図書館車プロジェクトには最適な組織といえるでしょう。

#### ■ウエストコースト移動図書館車プロジェクト

ジューンとともに“図書館のファンドレイズのためのプロポーザルの書き方”というワークショップに参加した際、何人ものウエストコースト地域からの参加者に、“私たちの地域でもぜひプロジェクトを始めたいので、バスの寄付を検討してください”と声をかけられました。

最近の組織変更で、ジューンは現在、西ケープ州教育省のEMDC(教育管理開発センター)(EDUCATION

MANAGEMENT DEVELOPMENT CENTER) ウェストコースト/ワインランド担当となっており、ヘッドオフィスはパールにあります。そこで彼女の直属の上司、ピエール氏とミーティングを持ちました。ウェストコースト全地域にはファームスクールが87校あり、総生徒数は8500人、教師は250名と、都市部と比べると人数は圧倒的に少ないです。先述のジョハネスバーグ近郊のバルセロナという地域の小学校は一校で生徒数が2000人でした。ただ、ウェストコースト地域の学校はとにかく広い範囲にわたってあるため、様々なリソースから隔離されている。移動図書館のサービスはこういう地域こそ最も必要とされるのではないのでしょうか。図書館車には本だけではなく、ビデオなどのメディアも搭載する予定です。また、州教育省が力を入れているカリキュラムは算数とリーディングなので、図書館車の貸し出すストーリーブックはリーディング能力を養うために大活躍するでしょう。図書館車は大小一台ずつ2台必要で、ベースは責任者を置く学校、もし

くはコミュニティーセンターなどにする予定です。場所としては、ピケットバーグ、クランウィリアム、フレデンダールなどの候補があがっています。国道N7は大変よく整備された道ですが、ちょっと横道を入るとあっといいう間に未舗装のせまい道になってしまうため、2台を使い分けたいとの意向です。運営費は教育省が協力し、石油会社などの地元企業や、国内外の基金に支援の要請をします。

最後になりましたが、南アフリカのたくさんの子供たちに代わって、TAAAの絶え間ない支援にお礼を申し上げたいと思います。私がプロジェクトを訪問したり、本を寄贈しに行ったりすると、皆大感激ですっかり私が感謝されてしまいます。でも、これは遠く日本のたくさんの人たちがみんなのことをいつも思っていて支援してくれているのだということを伝えていきます。これからもどうか南アフリカの子供たちのことを見守り、励ましてください。よろしく願いいたします。

◎平林さんは、11月現在ダーバンを訪問中です。年末から年始にかけて帰国するので、また報告が楽しみです。

## 最新情報はホームページでどうぞ

ホームページアドレス <http://www.h4.dion.ne.jp/~taaa/index.htm>

### ◆主な活動(2002年5月21日~9月25日)

5/24 2001年会計決算準備 安部弥生 野田千香子  
 5/25 住所ラベル準備作業 小宮山明子  
 5/25 インターナショナルスクール20校へ本寄贈依頼状 野田  
 6/2 作業と会議 野田 浅見克則 下谷房道 安部  
 6/1-6/5 会計集計 安部  
 6/5-6/20 会報29号編集 山田玲子 野田  
 6/21 車1台を横浜港へ搬入 浅見  
 6/27 車がダーバンに向け出港  
 6/30 ホームページ最新情報更新 大久保忠人  
 7/6 南ア連絡員平林薫 帰国  
 7/8 会報29号発送作業 井出栄 井出千亜紀  
 7/9 アメリカンスクールインジャパン(調布市)から本引取り 村泉巨竹  
 7/11 同上 浅見  
 7/13 南ア帰国報告会および会議 平林薫ほか  
 7/20 平林、南アへ戻る  
 7/21 梱包作業と会議 下谷 野田 西村裕子(岸智則、会議のみ参加)

7/27 KZN州への3台目の車を港へ搬入 浅見  
 7/27 河合塾で教科書梱包、集計 宮崎敦子ほかスタッフ  
 8/1 10周年記念誌編集会議 下谷 山田 野田  
 8/17 梱包作業と会議 下谷 浅見 野田 西村 山下八千穂 村泉 北爪健一  
 8/18 10周年記念誌編集会議 下谷 山田 野田  
 8/26 西町インターナショナルスクールから本引取り 村泉 野田  
 8/29 10周年記念誌編集会議 下谷 山田 野田  
 8/30 河合塾収集の本、名古屋を出港BLLへ 宮崎  
 8/30 東京板橋セントラルロータリークラブにて講演 浅見  
 9/4 ELETへ本出荷 野田  
 9/5 西町インターナショナルスクールとクリスチャンインジャパン(東久留米)から本引き取り 浅見  
 9/8 南ア文化交流会 南ア大使館主催 野田 村泉  
 9/16 作業 浅見 野田 安部 村泉 下谷 西村 山田 木村喜典  
 9/21 TAAA10周年記念祝賀会案内発送 野田